

## インフレの予兆か

先日の日経新聞の1面トップを見て驚きました。日本政府の抱える債務はGDPの230%と巨額になっており、財政再建にあまり時間は残されていないにもかかわらず、こんなことで大丈夫なのでしょう。あと3年もあるのにもう諦めたのか、それとも何らかの意図があるのでしょうか。もしかしたら、インフレにしますよというサインかもしれません。

### 基礎財政収支、20年度黒字化は困難に

内閣府は25日の経済財政諮問会議で、中長期の財政試算を示した。黒字化をめざす2020年度の国と地方の基礎的財政収支は8.3兆円の赤字を見込んだ。

政府は20年度までにこれを黒字にするとの目標を事実上の国際公約としており、安倍晋三首相は黒字化目標の旗は降ろさない方針だが、道は険しい。

2017年1月26日 日本経済新聞より抜粋

現在、「円の価値」に関しては「金利」という価値はゼロ金利だからありません。また、少子高齢化で生産年齢人口も減少していますので、需要と供給のバランスから考えるとインフレになりやすい体質です。さらに家計貯蓄率は低下に転じています（詳しくは昨年4月27日付レポートをお読みください）ので、政府の借金は国内でファイナンスできなくなりつつあるわけで、結果として日本国債の外国人の比率は今後も増加していくものと思われます（現在約10%）。

外国人に借金するという事は外国人に満期償還金を支払うということです。そして支払うためには円を印刷してドルに換え支払うのですが、理論的にはそのための円を印刷した瞬間に、円が増える比率に応じて円の価値は低下します。

つまり返済に見合う分の円を印刷しても、その分をドルに交換すると返済金額に届かないというジレンマが生じてしまうのです。するとその結果、常に多めに円を刷り続けなくてはならないこととなります。最悪、永遠に円を刷り続けなくてはなくなる可能性だってあります。つまり円の価値は下がり続けるということです。ですから、財政再建は急がなくてはなりません。

1月31日のテレビ東京のニュース番組「モーニングサテライト」に、米国金利上昇のきっかけとなった8月のジャクソンホール会議で講演したプリンストン大学のクリストファー・シムズ教授が出演しました（安倍内閣ブレーンの浜田宏一氏も意見を変えるほどの影響力があった）。

テレビキャスターの「日本政府は借金が多いのに財政出動して大丈夫か」との質問に対して、教授は「日本はこれからインフレになるので、借金の価値は下がる。だから日本は大丈夫です、政府は広く国民にプロパガンダを行いなさい。そうすれば国民は安心し、財政出動も問題ない」と言いました。しかし、インフレにして借金の価値を下げるとは、国民の預貯金が目減りすることに他なりません。

歳出と税収がバランスするためには歳出を抑え、増税するしかありませんが、今の景気では増税できる状況ではありません。

とすると政府としてはとりあえずクリストファー・シムズ教授の話に乗っかろう。兎にも角にもインフレにもっていこう。そうすれば借金の価値は下がるし、インフレ期待で株が上がれば国民も納得するだろう、と考えるのは自然です。

インフレになると何が起きるのでしょうか。人はお金を物に交換しようとしてますし、企業は手持ちの現金を設備投資向けます。ですから株は上昇します。また円の価値が下がっていきますので、相対的に外貨の価値が上がります。

一方で現金、預貯金の価値は減少します（仮に10%のインフレが5年続けば100万円が5年後には59万円の価値しかない）。

今後の財政や経済、物価に関するニュースは注意深く読むことが必要になりそうです。

2017年2月6日